

6月 ちびっこ落語の学校

令和4年6月23日

椎葉村立
不土野小学校



村内5校の友達と仲良くなれた宿泊学習

5月18日から20日まで、椎葉村内5校の合同宿泊学習でした。参加したのは、村内5校の5年生17名と、引率の先生方7名の合計24名でした。2泊3日の間、ケガや病気無く、よい思い出をつくってこれたようです。活動の内容は、ウォークラリー、サイクリング、日の出見学、砂の造形、フィールドアスレチック等です。3日間で仲のよい友達も増えました。



命を守る学習「土砂災害防止教室」

日向土木事務所椎葉駐在所の方々に来校していただき、「土砂災害防止教室」を行いました。「土石流」「崖崩れ」「地滑り」などの土砂災害の映像には子供達も驚いていました。

また、模型で土砂災害が起こるしくみや身を守る方法について学びました。子供達も模型をさわらせていただき、土砂災害を「自分に関わること」として学ぶことができました。これから雨が多くなる時期に入ります。一番大切なことは、「早めの避難」だそうです。



専門家の支援や協力をいただいています

6月7日（火）は、延岡からスクールカウンセラーの先生が不土野小に来てくださり、子供達全員とお話をされました。日頃「楽しみにしていること」や「気になっていること」などをじっくり聞いてくださいました。子供達も気軽にいろいろなことを話してくれたようです。話を聞いてもらえるだけでも心が楽になるのではないのでしょうか。今後も定期的に来ていただけるので、子供達の不安や悩み等が少しでも解消できればいいなと思います。

また、6日（月）は、特別支援教育エリアコーディネーターの先生にも来ていただき、授業参観をしていただきました。「どの子も分かる・できる指導」の仕方について、職員にアドバイスをいただきました。このように、不土野小学校は多くの方の支援や協力をいただきながら学校教育を進めています。



6～7月の不土野小の予定



月	火	水	木	金	土	日
6月20日	21日	22日 栽培活動	23日 伝承活動 クラブ	24日	25日	26日
6月27日	28日	29日 学校訪問 (村教委訪問)	30日 集合学習(中学年)	7月1日 集合学習(中学年)	2日	3日
7月4日 参観日	5日 全校朝会 落語一斉指導	6日 計画委員会 (運動会-か)	7日 集合学習(低学年) クラブ(一輪車)	8日 集合学習(低学年)	9日	10日
7月11日	12日 伝承活動 学校関係者評価委員会	13日 プール納会	14日 集合学習(高学年)	15日 集合学習(高学年)	16日	17日 子ども落語宮崎県予選
7月18日 海の日	19日 スクールカウンセラー来校	20日 結団式	21日 終業式	22日 夏季休業	23日 夏季休業	24日 夏季休業

※ この通信を作成した段階の予定です。感染症対策やその他の理由で、変更になる場合があります。

～裏面にも記事があります～



ICT機器を使つての授業を進めています

6月14日（火）は、1・2年生が初めてオンライン授業を行いました。尾向小の1・2年生と図工の鑑賞会です。今回は、不土野小1・2年担任が中心になって授業を進めました。お互いに自分の描いた絵を発表し、他の子が感想を出し合いました。初めは緊張した感じでしたが、少しずつ慣れてきた感じで、作品をほめられて嬉しそうでした。尾向小の子供達の作品も見ることができたので、とてもよい学習になりました。

また、15日（水）は、5・6年生の道徳オンライン授業を全職員で参観しました。宮崎市から来られたICTの専門家2名も参加してくださいました。

尾向小学校と不土野小学校をインターネットでつなぎ、自由に発言できるようにしました。自分とは違う考えにたくさん触れることができ、不土野っ子もたくさん発表できました。

授業後の協議では、「どうすれば、オンライン授業をさらに効果的に進められるか」という視点で、学校間でも意見の交流をすることができました。

協議の後には、ICTの専門家のお二人にそれぞれ、講義をしていただきました。本校のICT機器を活用した学びがさらに進みそうです。



落語の一斉指導

落語の一斉指導を行いました。一人一人が演目を5月に決め、これまで先生やおうちの方にアドバイスを受け、少しずつ練習してきました。今日は、練習してきた落語を先生たちに披露し、一人一人がアドバイスを受けました。

最初に、不土野小で重視している落語のポイント5ヶ条を確認しました。

その5ヶ条とは、「①早口にならない ②はっきり、大きな声で ③リズム・間 ④姿勢（立腰） ⑤登場人物の気持ちになる」です。

その後、先生方がいるところに行き、8分ごとに順番で回っていきます。

練習途中で、まだ全部覚えてはいない子もいますが、みんな話し方がもう落語でした。これが完成したらどれだけの落語になるのか、楽しみです。



家族の結びつきを深める「連帯」二通り

（校長の独り言）

（学校便りのスペースが余ったので、「校長の独り言」を書かせていただきます。）

早いもので、あと1ヶ月くらいで夏休みになります。夏休みは、家族で何かを行う機会が増えると思います。家族の結びつきを深めるととても良い機会になることでしょう。

わたし（校長）の実家は専業農家なので、夏休みに家族で何かを行うといえば、「農作業」でした。海に連れて行ってもらうということは、殆どありませんでした。牛を飼っていたので、泊まりがけの旅行もいったことはありません。

今思うと、家族で農作業をすることで、親のありがたさや苦労が分かった気がします。農作業の合間に食べるお菓子やお茶はおいしかったです。

夏の思い出といえば、近所を流れる夜の川に、父親と魚を捕りに行ったことがあります。カーバイドランプをもち、川の中を歩いて上流へ向かうと、おもしろいように魚が捕れました。浮かびながら流れてくる魚もいます。魚も夜眠るのだということを初めて知りました。捕った魚は、フライにして食べました。これもおいしかったです。

ところで、家族のつながり方には、二通りあるという方がいます。

現在一般に行われている家族レジャーは、普段の生産活動とは反対のことをすることだと考えられています。考えない、働かない、つからない、歩かない、苦労しない、そういうレジャーです。私は、そういう形での家族のつながり方を、「消費的連帯」と呼んでいます。

それに対して、先に述べたような形で生まれてくる家族の結びつき方は、「生産的連帯」と呼ぶことができるでしょう。

例えば、家族で花壇をつくること、花の種をまくこと、窓ガラスやベランダをきれいにすること、大掃除をすること。それらだって進め方によっては、りっぱなレジャーになります。「生産的連帯」を生むレジャーの意義にも、目を開かせていきたいものです。

野口芳宏 「自主自立の教育」より（明治図書）

「消費的連帯」というのは、例えば、「外食する」「旅行に行く」「映画を観る」「買い物に行く」が考えられるでしょうか。

また、「生産的連帯」は、「掃除をする」「親の仕事を手伝う」「親子で何か作る」等でしょうか。考えてみると、わたしの子ども時代は、殆ど「生産的連帯」で家族のつながりが深められていたような気がします。

レジャーといえば、旅行や外食などの「消費的連帯」を連想しがちですが、「生産的連帯」でも家族の結びつきは深まります。

夏休みやお休みの日には、ぜひ両方の「連帯」で楽しい思い出を作ってください。